

道徳科学習指導案

指導者 T1 吉田 正信
T2 宮本 麻美

- 1 日 時 平成31年5月14日(火) 5校時
- 2 学 年 第3学年 21名(男子13名 女子8名)
- 3 場 所 第3学年教室
- 4 主題名 いじめを許さない心 内容項目C 公正, 公平, 社会正義
- 5 ねらい 筆者が三十年間大切にしてきたことを考える事を通して、いじめの残酷さに気づき、学級における仲間との生活や今後の人生においていじめを許さない心情を育てる。
- 6 教材名 卒業文集最後の二行(中学道徳あすを生きる3 日本文教出版)

7 主題設定の理由

(1) 主題観・価値観

本時の主題は、「中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編」のC「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」をもとに設定されている。

公正, 公平を重んじるには、私心にとらわれず、事実をゆがめることを避けるよう努めて生きることが大切である。人は、時に自己中心的な考え方や偏った見方をしてしまい、他者に対して不公平な態度をとる場合がある。そこから生まれる差別や偏見をもとに、些細な出来事やコミュニケーションの欠如, 同調圧力などがきっかけとなって、誰もが常に被害者にも加害者にもなりうるものがいじめである。本教材における筆者の経験を自分たちに置き換えて、いじめは絶対に許さないという価値観だけでなく、そのために自分の弱い心と戦っていく心情を育てたい。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

本時の学習で扱う資料は、小学校時代にいじめを繰り返した「私」の人間として許されない行為を、三十年以上経った今でも深い心の傷として後悔する懺悔の手記である。筆者「私」は、いじめを繰り返した相手が卒業文集最後の二行に書いた切なさ、悔しさを知って強く衝撃を受けたことを綴り、「あの二行を読まなかったら、現在の私はどうなっていたであろう。」と文章を締めくくる。中心発問ではこの「私」の思いを通して、いじめを許さないためには何が大切なのかを全体で考えたい。そのためにグループ活動を用いて積極的に意見交流をさせる中で、互いの考えを深めさせたい。また、いじめの裏にある弱さや醜さを押さえることだけで終わるのではなく、筆者「私」の変容について考えさせることで、人として生きる上で大切にすべきことを生徒が自分自身の問題としてとらえ、学級における仲間との生活や今後の人生に生かしていこうとする実践意欲を高めたい。

(4) 評価

学級における仲間との生活や今後の人生においていじめを許さないという実践意欲が、発言や記述に見られたか。

8 準備物 全校アンケートの結果・場面絵（タブレットとモニターで提示）

9 本時の展開

段階	学習活動	主な発問（○印）と 予想される生徒の反応	T ₁	T ₂	◇ 指導上の留意点 ☆ 評価
導入	1 全校アンケートの結果について考える。	○この結果を見て、どう思う？ ・やめさせることができると思わない人が多い。 ○そもそもいじめって、何だと思う？ ・周りに合わせないといけないから。 ・相手の気持ちを考えないから。	発問	アンケート揭示	◇いじめについて考えるきっかけとする。
展開	2 教材を読み、考える。	○T子さんは最後の2行をどんな気持ちで書いたのだろう。 ・悲しい ・これ以上惨めな思いをしたくない	発問・ 机間指導	板書・ 揭示・ 机間指導	◇T子さんの思いを通していじめの残酷さに気付かせる。
	【話し合い活動】	◎それから三十年あまり、「私」のぶれない芯となった考え方は何か。 ・いじめをしない ・貧しい人や困っている人を差別しない ・周りがしていることでも、正しくないとと思ったら一緒にならない ○今の意見の中にある「差別」って、一体どういう意味だと思う？ ・自分と違う人を軽蔑する ・弱い人を更にばかにする			◇その後の私の生き方を考えさせ、ねらいに迫る。 ◇個人→班→全体交流 ☆いじめを許さないという発言や記述が見られる。 ◇班→全体交流 ◇辞書などに頼らず、自分たちで考えをまとめさせる。 ◇発表後、机を戻す
終末	3 学習を振り返り、自分の考えたことを整理する。	○今日の学習をもとに、私（生徒）は、どんなことを大切に生きていきたいか。 (数名の生徒に発表させる)	机間指導	机間指導	◇指名発表 ☆いじめを許さないという発言や記述が見られる。